

SDGs 実践例紹介コーナー

貧困、紛争、気候変動、感染症。人類はこれまでになかったような数多くの課題に直面し、このままでは人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。そんな危機感から、2015年9月の国連サミットで、2030年までに達成すべき具体的な目標が立てられました。それがSDGs [Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)]。我々がすべき"持続可能な社会の実現に向けた17の目標、169のターゲット、232の指標"が明記されています。SDGsは単なる期待目標ではなく、世界中の政府、地域社会、企業に対し広く協力を求め、人類と地球の繁栄の実現をめざす具体的な行動計画です。このコーナーではSDGsに賛同し、事業所活動として継続的な取り組みを実践するための秘訣を聞きます。

今号のSDGs実践例紹介:CKD株式会社



きっかけ

きっかけはEUが2003年に発令したRoHS(ローズ、特定有害物質使用制限)指令。これにより鉛などを含む電気・電子機器をEUへ輸出できなくなったこと。対策を進めていく中で、化学物質を削減することは環境負荷を減らすことであり、全社的な取り組みとして環境負荷低減型商品を開発・提案していこうと方向性が決まった。



2つの秘訣

1 トップダウンで押し進めるべし

(社長をトップとした部署横断の委員会を組織し取り組む)

2 SDGsの内容を理解することに時間をかけるべし

(17のゴールを整理し自分たちの事業とつなげたマップを作成)



結果

SDGsへの取り組みを通じて、“コストがかかっても環境にいいものがほしい”という環境に対してのお客様のご要望が変化しているということを実感しました。また取り組みを進める上で、例えば、SDGsのこの賞を取ろう!などのように特別なことはしていません。あまり構えず、まずはSDGsについての理解を深め、事業とのつながりを見出していくことが大切だと思います。

- 1 SDGsへの理解が深まる
- 2 経営層は世界とのギャップを把握
- 3 売り上げ増加
- 4 社員は活動が認められモチベーションが向上
- 5 お客様の要望に応え続けることで高付加価値商品を創出

CKD株式会社(小牧市応時)は、自動化技術と流体制御技術を用いた独自の商品開発への取り組みが環境負荷低減に貢献していると評価され、2021愛知環境賞の最高位である「金賞」を受賞しました。SDGs推進について全社レベルの取り組みを行っています。



機械の長寿命化を実現した高耐久機器「HPシリーズ」



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



12 つくる責任 つかう責任

“世界の自動化に貢献、環境負荷低減商品の開発、廃棄物の削減に貢献”したことが評価されました。



食品の長期保存を可能にした窒素ガス精製ユニット「NSシリーズ」



2 飢餓をゼロに



17 パートナシップで目標を達成しよう

“食品の安全、長期保管への貢献、業界団体との連携による研究や開発の促進、廃棄物の削減に貢献”したことが評価されました。

会社概要

CKD株式会社 1943年創業、小牧市応時に本社を置く流体制御と自動化のグローバルパイオニア企業。「豊かな社会づくりに貢献する」を企業理念に、自動機械装置、駆動機器、空気圧制御機器、空気圧関連機器、流体制御機器など機能機器の開発・製造・販売・輸出を行い、国内外の様々な業種のモノづくり現場を支えている。
 <問合せ先:CKD株式会社 サステナビリティ推進部 TEL.0568-74-1234>
 奥岡克仁 代表取締役 社長執行役員



SDGsに取り組むことで、自社の環境技術を社会に再評価されただけでなく、社内の一体感が醸成されたことは大きな成果である。



一般社団法人
 中小企業支援ナビ代表理事
 中小企業診断士

長谷川雅彦